

警察労働運動へますます傾斜を深める動労本部

動労才37回全国大会を批判する



No.91

日刊 動労千葉

81.7.26

No. 全国版 91

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇五三（二）七二〇七

全国の動労組合員のみならず、動労千葉は、第三七回全国大会で「本部」反動分子がデッチ上げた「千葉動労」による六・一二集団暴行事件を糾弾する決議を満腔の怒りをもって糾弾します。「本部」反動分子が、警察・権力と一体となり、ありもしない「六・一二津田沼事件」をデッチ上げ、「告訴」し、それに応えた権力が強制家宅捜索一六名の津田沼支部役員・活動家を不当逮捕しました。第三七回全国大会で不当逮捕の翌日七月十六日に採決された決議は、動労が「本部」反動分子によって警察の補完物になり下ってしまったことを示し、永久に弾劾されなければならない何よりの記念碑です。

またもやデマと暴力で「満場一致」を無理矢理演出！

もとよりこの決議が、「本部」反動分子の暴力を背景とした「拍手による満場一致」であること、われわれは熟知しています。

全国の心ある多くの代議員が、このデタラメな決議に反対している中で、権力の六名の逮捕という動労千葉への不当弾圧の翌日に、このような動労の名を辱しめる決議を暴力を背景に強制する「本部」反動分子に対し、動労千葉は、怒りをこめて糾弾すると同時に、全国の心ある動労組合員に対し、今こそ決起すべきことを訴えます。

第三七回全国大会における「本部」反動分子の暴力と、暴力を背景とするデタラメな組織運営は、津山暴力大会の時と全く同じです。それは、あまりの暴力に抗議し退場した代議員に対するナグリの暴行、「貨物安定宣言」II「五五・一〇確認事項」や「水本」など、セクト的方針に反対の発言をする代議員に対するヤジと怒号を見るならば明らかです。

このような暴力によるセクト支配を容認する限り、三五万人体制から職場を守る動労運動などできるはずがありません。

権力や当局と手を組む動労「本部」反動分子に未来はない！

口を開けば「戦闘的」を云々する「本部」反動分子が、実は、権力と一体であったということは、今回の動労千葉に対する「告訴」を見れば一目瞭然です。

デッチあげ・告訴・逮捕 攻撃重を粉碎せよ

この「本部」反動分子の手引きによる、権力の不当逮捕―組織破壊攻撃を糾弾し、早期釈放を要求する闘いは、県下の労働者・市民の中へも、日毎に大きく拡大しつつある。

- 一、労働運動への不当介入―弾圧を糾弾する！
 - 二、六人の仲間を即時釈放せよ！
- を骨子とする動労千葉からの団体署名の呼びかけ

然です。

第三七回全国大会の翌日の七月十九日、「東京地本・松崎委員長」以下の反動分子共が、本社労働課の設定したゴルフ場で、十四人のボディガードを待らせて「終日ゴルフを楽しんだ」ことが「週刊新潮」（七月三〇日付発行）に写真入りで暴露されています。

このような「労組幹部」の墮落・腐敗があるでしうか。

セクト支配を排し、動労大改革へ

第三七回全国大会は、「先細りの組織・億超す赤字・役員減らし」という商業新聞の見出しに代表されるようなことだけが世間の話題になる―つまり方針的には全く話題にならない大会に終始しました。

労働組合の戦闘制をできるだけ大寫しにして世間の反発を煽ろうとするブルジョワマスコミにまた「組織の将来が危い」と指摘される動労にしてしまった「本部」反動分子の責任は、いくら追及されても追及し切れないほど犯罪的であるといわなければなりません。

かつて多くの先輩達が血と汗で築きあげてきた動労の戦闘性を回復し、三五万人合理化から職場を守るために、「本部」反動分子に、片肺執行部を強制した全国の心ある動労組合員の階級的良心を全職場に波及させることを通して、今こそ、「本部」反動分子のセクト支配を拒否し、動労大改革をかちとろうではありませんか。

「六名の即時釈放」 警察の不当介入糾弾！

警察の不当介入糾弾！ 警察の不当介入糾弾も前進に、千葉県労連および社会党千葉県本部が全面的な支援の方針を決定し、各単組へ呼びかけたのに応じて、すでに、千教組、全通、全農林、アル専等々の各単組からの機関決定による署名が早速集中されたのをはじめ、事態の本質を理解し署名その他への協力等が續々と拡大しはじめています。（七月二四日現在）